

1

私のすてきなおじいちゃん

今日は、北九州市小倉南区の小学四年生、津田紬希さんの作文を紹介します。題は『私のすてきなおじいちゃん』です。

私には、やさしいおじいちゃんがありました。おじいちゃんは、私が四才の時、天国に旅立ちました。にん知しようという病気でした。

おじいちゃんは、だんだんと家族の名前もわすれていきました。自分で自分の事もできなくなっていました。私がよくおぼえているおじいちゃんではありませんでした。小さかった私は、その事を

「赤ちゃんになったのかな。」
と思いました。

小学生になって、おばあちゃんの話の聞きました。おじいちゃん、家族が大好きで、私のお母さんをとてもかわいがっていた事、旅行が好きで、年をとってからは、おばあちゃんといっしょに、たくさん旅行に行った事などです。たくさんのお思い出のあったおじいちゃんが、だんだんいろいろな事をわすれていくという事は、家族にとっても、とてもつらかっただろうと思います。私のおぼえているおじいちゃんは、家族にたくさん手伝ってもらって、生活をおくっていました。しかし、病気になる前は、がんばってくれていたと知

りました。

おじいちゃんは、七十九年も生きました。長い間、楽しい事がたくさんあったと思います。これから、おじいちゃんのような人に会った時、その人は、自分より何倍も長く生きてきたという事、がんばっていた事を考えて、人としてきちんとせつしていきたいと思えます。

病気で、きつくて、やさしく私にしてくれたおじいちゃんが、大すきです。とても、そんけいしています。おじいちゃんは、私に、家族を大切にすること、がんばって生きていく事、人にやさしくせつしていく事など、たくさん事に気付かせてくれました。私は、おじいちゃんのように、きちんと生きようと思えます。

いかがでしたか。おばあちゃんの話から、自分の知らなかったおじいちゃんの人生を知り、たくさんことに気づかされた紬希さん。

亡くなった後も家族に多くのことを教えてくれる、本当に素敵なおじいちゃんですね。

では、また。

